

**令和5年度第2回  
広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会  
議事要旨**

**1 開催日時**

令和5年12月15日（金） 14時00分～15時30分

**2 開催場所**

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

**3 出席委員**

委員5名中5名出席

市原則之委員（座長）、服部宏治委員、名越基康委員、花本幸次委員、大岡和之委員

**4 会議内容**

(1) 開会

(2) 議事

ア 広島市における競技人口減少種目等の現状について

（広島市スポーツ少年団の状況（団員数・団数・指導者数の推移）を含む。）

イ 第1回の研究会での意見等を踏まえた対応方針案について

(3) 閉会

**5 公開・非公開の別**

公開

**6 傍聴者**

0人（報道関係者を除く。）

**7 会議資料**

- ・広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会配席図

【資料】広島市における競技人口減少種目等への対応について

【参考資料1】広島市スポーツ少年団の状況（団員数・団数・指導者数の推移）

【参考資料2】中国5県の武道場・武道館の整備状況

【参考資料3】政令市等の武道場・武道館の整備状況

**8 内容**

**【事務局】**

定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度第2回広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会を開催します。

本日は、お忙しい中、本研究会に出席していただきありがとうございます。

私は、市民局文化スポーツ部スポーツ振興課課長補佐の島廣です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、配付物の確認をさせていただきます。

お手元の次第に本日の配付物が記載されていますので、御覧ください。上から順に、次第、名簿、配席図、続いて、資料が1ページから7ページまでございます。最後に参考資料1-1、1-2、

1-3、そして、参考資料 2、3 があります。また、「初心者向けスポーツ教室のご案内」という緑のチラシをお配りしています。不足がある場合は手を挙げてお知らせください。

前回の会議では、競技人口減少種目の現状及び課題について委員の皆様から率直な御意見をいただきました。本日は第2回ということで、第1回の御意見を踏まえた対応方針について御議論いただきたいと思います。

なお、本日の会議終了時間は、15 時 30 分を予定しております。限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いします。

それでは、これから先の議事進行は、市原座長にお願いします。市原座長、よろしくお願いします。

#### 【市原座長】

承りました。それでは早速、議事に入らせていただきます。議事(1)、(2)について、まず、事務局から、関連資料について説明いただき、その後、皆様から御質問、御意見をいただく形で進めさせていただきます。

それでは、説明をお願いします。

#### 【事務局】

私の方から議事に関する資料についてご説明します。まずはこちらの資料をご覧ください。

#### （概要）

「1 概要」について、前回のおさらいになりますが、現在、競技人口が減少している種目につきましては、競技を行う機会であるとか場所の確保が困難になるなど、競技人口や競技力の維持・向上が図られなくなり、競技人口の減少が一層加速するといったような事態が発生していると考えています。こうした事態を放置すれば、競技種目の多様性を損なうだけでなく、競技文化そのものの喪失をも招くこととなり、本市が目指す新しい「スポーツ王国広島」の実現にとって、大きな障害になると考えています。このため、今後競技人口が減少すると見込まれる種目等を中心に、ハード及びソフトの両面にわたる環境づくりを目指すものになります。

#### （新しい「スポーツ王国広島」について）

次に「2 新しい「スポーツ王国広島」の考え方」ですが、前回の繰り返しになりますが、スポーツはそれ自体が生きがいになるだけでなく、健康の増進や地域コミュニティの活性化、まちづくりにも寄与するものであります。スポーツに全市民が関われば、笑顔であふれる平和なまちを体感できるようになるのではないかと考えております。このため、そうした環境を広島市として作っていききたいというものです。

#### （中学校運動部活動及びスポーツ少年団の現状について）

続いて「3 中学校運動部活動及びスポーツ少年団の現状」についてです。まず「(1) 広島市内中学校の運動部活動の状況」ですが、前回もデータはお示しさせていただいており、その際に「ア 部員数」と「イ 部活動数」についてご説明させていただきました。その概要をコンパクトにまとめたものとなっております。「ウ 総生徒数に対する運動部活動の加入率」について、これは前は出していなかったもので、総生徒数に対して運動部活動の加入率がどのようになっているかを示した表になります。これを見ますと、令和 4 年度に関しては、総生徒数 34,514 人に対して加入者数が 20,429 人となっています。加入率は 59.2%です。これが、10 年前の平成 25 年度を見ますと、総生徒数が 35,038 人、加入者数が 22,769 人で加入率は 65%となっています。令和 2～4 年の 3 か年は減少傾向が大きいですが、平成 25 年度と令和 4 年度では加入率は 5.8 ポイント減少しているという実態があります。

次のページをご覧ください。今回はスポーツ少年団の状況についてもご説明させていただこう

と思います。スポーツ少年団の団員数と団数、それから指導者数についてデータをまとめました。広島市スポーツ少年団については、過去のデータが平成 11 年度からの数字で見えています。団員数の総数は、最も多い平成 11 年度が 10,634 人で、直近の令和 4 年度では 6,485 人と、39.0%減少しています。このグラフについてですが、「参考資料 1-1」をご覧ください。今回は剣道と柔道を研究の対象としていますが、グラフについては全ての種目を抽出しています。これを見ますと、平成 11 年度から多くの種目について減少傾向が見られます。グラフでは剣道を青い太線、柔道を赤い太線で示しており、剣道は右肩下がりの傾向にあり、柔道に関しては横ばい傾向にあることが分かります。次に「参考資料 1-2」をご覧ください。こちらはスポーツ少年団の団数の推移になります。団数に関しては団員数ほどの減少はないですが、各スポーツ少年団の所属団員数は少なくなっている状況にあると考えられます。これに関しても剣道は減少傾向にあり、柔道はむしろ上昇しているような傾向が見られます。次に指導者数の推移（「参考資料 1-3」）です。指導者数についても剣道が右肩下がりとなっており、柔道は横ばいの傾向がみられます。ただ、この指導者に関しては、令和 2～4 年度がかなり減少していますが、総トータルでは平成 29 年度が最も多くなっています。令和 2～4 年度が減っているのはコロナの影響なのかなと考えています。聞くところによると、指導者をスポーツ少年団に登録するのにお金が必要で、一人当たり 1,100 円ほどかかります。登録すると、色々な講習を受けることができますが、コロナ期間中は講習等が中止になることが多く、登録料を支払うメリットがないことから、登録をしない方もいらっしゃると思います。

資料 2 ページに戻ります。スポーツ少年団全体として、柔道は横ばい、剣道は減少傾向にあるということでした。中学校の部活動と比べると、柔道に関しては、部活動は減っているがスポーツ少年団については横ばいという状況があります。これを考えてみると、中学校の部活動は対象が 3 学年、3 年生が卒業すると 2 学年になってしまいます。2 学年に柔道部員がいなければ、その部は存続しない。それに対してスポーツ少年団は、小学生・中学生と幅広く対象がおり、活動を継続しやすい環境にあると思っております。

#### （中国 5 県、政令指定都市の武道館・武道場の整備状況について）

続いて「参考資料 2」をご覧ください。中国 5 県の武道館・武道場の整備状況についてです。前回の研究会におきまして、広島県・広島市には武道館がないが、そのほかの中国 5 県には武道館があるという話がありましたので、その確認として一覧にまとめてみたものです。広島市に関しては、広島県立総合体育館の中に武道場はありますが武道館はありません。この対象施設の抽出の仕方として、公共施設である場合が多いので①各都市の条例にある施設ということ、②「武道館」「武道場」または武道に係る名称が付く施設かどうか、面積が小さい施設は多くあるため、ここでは③面積が 4 面または 700 m<sup>2</sup>以上確保できる施設を対象としています。そうすると、岡山県や山口県は武道館が多くあり、島根県にも武道館があるため、委員がおっしゃるとおり、中国 5 県で武道館がないのは広島だけという状況です。その次のページをご覧ください。同じく政令指定都市の状況はどうかと前回ご質問がありましたので、それについても調べてまいりました。各都市で多いところ、少ないところがありますが、数が多いところでは札幌市、新潟市、静岡市、北九州市、岡山市、福岡市などがあります。数が多いのは、体育館などに武道場が 1 面や 2 面など面積が小さいけども設置されているもの、あとは大きな武道館・武道場は県立のものが多くという印象です。広島県のグリーンアリーナについては、武道場の規模は大きいですが、武道館ではないという状況です。政令市の状況については以上です。

#### （研究会での意見等及び対応の方向性（案）について）

これが現状ということなのですが、これに対して、前回の研究会を踏まえて、広島市としてどのような対応が必要かというのをとりまとめたものが資料の 3 ページ以降になります。3 ページをご覧ください。表の作りとして、真ん中に前回の研究会での主な意見を書かせていただいております。そして右側が対応の方向性ということで、黄色で示している部分が取組の方向性・考え方

を書いています。さらに網掛けで下線を引いた部分が具体的な取組というようなイメージです。区分ごとにご説明させていただきます。

#### （競技者（競技人口）について）

まず「競技者（競技人口）について」です。前回の主な意見としましては、柔道・剣道を始めるきっかけは、兄弟がやっているであるとか、親がやっていた、同級生がやっているから誘われたというのが多いということでした。また、小学校ではやっていたが、中学校にいったら剣道部がないため他のクラブに入るといような状況ということでした。これを受けた対応の方向性ですが、子供たちが剣道や柔道を始めるきっかけとして、親や兄弟がやっていたから、同級生や友達がやっていたからという意見があり、自分の周りに経験者等がいなければ、競技を始める機会を得ることが難しい状況がみられるということであるため、周りに経験者等がいなくてもそういうスポーツに携わることができる環境づくり、スポーツ未経験者や初心者である子供たちも、自分が興味のあるスポーツに触れる機会を得ることができるようにしたらどうかと考えています。具体的には、広島市スポーツ協会に加盟する競技団体と連携し、競技団体が主催する子供たち等を対象とした初心者向けスポーツ教室・体験教室に関するチラシの作成・配布などに取り組む。また、特に事務局機能が脆弱な競技団体、小さな競技団体もいると思いますので、単独では開催が難しいような場合には、市が共催でスポーツ教室を開催する、必要に応じた支援を行うのはどうかと考えております。スポーツ教室に関するチラシの作成・配布についてですが、お手元に緑色のスポーツ教室のご案内というチラシをお配りしてはいますが、こちらは令和 5 年度に各小学校に配布したものです。これを 65,000 部ほど印刷し、市立の全ての小学校に配り、興味のあるスポーツ教室に申込みをしていただいたというものになります。令和 5 年度については、柔道だけでなく、レスリングや社交ダンス、スケートなど、競技団体から希望があったものについて載せて配布しています。これを拡充して他の団体も載せられたらよいのではないかと考えております。

次に、小学生のときは競技をしていたが、中学校に進学すると部活動が無いため、他の競技の部活・クラブに入るといった状況があることから、そうした者が競技を継続することができるように、競技団体等と連携し、中学校の部活動以外での競技活動の場の確保や、競技者・指導者・競技場所のマッチング等の仕組みについて検討したらどうかと考えております。中学校ではなくて、例えば各区に最低でも 1 か所程度町道場のような習う場所があればよいのではないかと。剣道・柔道だけではなく他の競技人口が少ない種目についてもそういうようにできたらいいんじゃないかと考えたものです。現在中学校で休日の部活動の地域移行というのが進められていますが、その受け皿にもなるのではないかと考えております。

#### （指導者（競技力の向上）について）

続いて、指導者（競技力の向上）についてです。剣道・柔道ともに今の指導者が一生懸命やってくださっていて、新たに資格を取る動きなどがあるため、今のところは大丈夫というお話がございました。それと大学の運動部活動の部員を活用して、そうした人を指導者として招いてはどうかというような意見もございました。それに対する対応の方向性ですが、広島市剣道連盟及び広島市柔道連盟においては、指導者による指導状況や指導者の資格取得等について、現在はある程度の水準を保つことができているとのことですが、今後のことを見据え、新たな指導者の発掘や育成についても、検討しておく必要があるのではないかと考えております。このため、新たな指導者の発掘・育成の観点から、指導未経験者や指導者になることを検討している方たちを対象に、競技団体による講習会・研修会を開催してはどうかと考えております。具体的には、広島市スポーツ協会に加盟する競技団体と連携し、初心者向けスポーツ教室を開催する際に、その前後において同競技の競技連盟による指導未経験者・初心者向けの指導講習を開催してはどうかと。また、初心者向けスポーツ教室にも参加していただくと、実践的な指導方法等についても習得できるのではないかと考えております。

次のページになりますが、広島市スポーツ協会に加盟している競技団体等の指導者を対象に、国内の優秀な指導者を招いた講習会を開催しているが、場所が確保できずに開催を取りやめているケースがあると聞いております。このため、場所の確保について市として支援する制度ができないかと考えております。また、指導者が、公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者制度に基づく指導者養成講習会等を受講する場合に、旅費を助成していますが、これについて講習会等への受講対象者を増やすなどの拡充ができないかと考えております。

また、指導者の確保のため、運動部のある大学等と連携し、大学等の運動部員を指導者として招いて、小学生や中学生等の指導を依頼するように調整を図りたいと考えております。具体的には、協定を締結するなどが考えられます。こちらに関しても、中学校の部活動の地域移行にも取り入れることができるのではないかと考えております。

### （競技者（競技力の向上）について）

続いて、競技者（競技力の向上）についてです。前回の研究会では、一貫指導で子供たちを指導していくのがよいのではという意見がありました。また、一貫指導だけでなく、例えば一度ドロップアウトしてしまった人が、また楽しんでスポーツをして、その後また戻ってこれるような環境づくり、一貫指導体制に対して多貫ということもやったらよいのではないかとという意見がありました。これに関して、競技を続ける中で、競技を楽しむだけでなく、スポーツ大会等でよい結果を残したいという高い目標を持つ子供たちの目標の達成を支援するため、競技者の競技力の向上について取り組みたいと考えております。このため、これまで本市で取り組んできた「競技力向上対策事業（ジュニア選手を対象とした強化合宿、遠征に対して助成）」であるとか「国民スポーツ大会等を目指すジュニア選手育成事業（各競技の優秀な指導者の招へい等に対して助成）」などの取組の成果等を分析し、取組の強化や拡充等について検討したいと考えております。

一貫指導体制に対する「多貫」指導の意見については、生涯に渡り様々な形でスポーツに関わりを持とうとするものであり、新しい「スポーツ王国広島」の考え方に沿うものであるため、今後のスポーツ振興の取組において参考としたいと考えております。

### （中学校の部活動の状況について）

前回の研究会では、学校の教員に柔道や剣道の専門の指導者がいない、また、中学校に部活動が無いために、競技を継続することが難しい状況があるという意見がありました。まず中学校に剣道や柔道を指導できる教員を採用するというのは、科目のこともあり、なかなかそれを優先して、どういう体育ができるかスポーツができるかという観点で選ぶのは難しいのではないかと考えております。

その一方で、令和 5 度から中学校体育連盟の大会に、中学校の部活動ではないクラブチームが参加できるようになり、競技を継続したいと思う競技者や指導者に動機付けができる状況に変わってきています。さらに来年度は一部競技で「別々の学校同士でも出場が認められる」、「在籍する学校の都道府県とは異なる自治体の地域区クラブからも出場できる」といった出場条件の緩和が検討されています。こうした動きを機に、中学校以外で競技が継続できるように、競技団体等と連携し、競技を継続することができる場の確保や、競技者・指導者・競技場所のマッチング等の仕組みについて検討できればと考えております。

### （競技場所（競技施設）について）

前回の研究会では、市内 8 区のスポーツセンターに体育室はあるが、競技団体の大会や地域のスポーツ活動などで多くの利用希望があるため、皆様の希望どおりに活動場所が確保できていない実状があり、ハード面でも不足していると考えられるという意見がありました。また広島に武道館が無いのが大きな問題であると。これまでは武道館で先輩後輩が行きたいときに行って技術を学ぶことができたけれども、それがなかなかできていないのではないかとという意見がありました。

市内 8 区のスポーツセンターについては、スポーツ大会等の開催のための年間利用調整を行っており、大きな大会等を開催するときには優先的に前年度から大会をここで開催するという調整を施設の方でやっていますが、令和 5 年度の土日祝については、8 区のスポーツセンターの体育室における大会等の利用要望が年間 1,115 件あったのに対し、調整できたのは、873 件にとどまり、242 件は利用を断っている状況となっています。

また、他の意見として、中国地方の他県には武道館があるが、広島県だけが武道館が無い状況であり、広島市にある県立体育館の武道場も多目的に使われているため、なかなか使えないといったものや、競技施設に関しては、柔道だけ、剣道だけ、広島市だけに限定せず、多くの競技種目を県全体で支えるネットワークづくりの方策を今後考えるべきであるといったものがありました。

上記のとおり、各区スポーツセンター等における各種競技団体が主催する市民等の参加型のスポーツ大会等の利用調整において、調整が非常に困難であり大会等の開催が難しくなっているなど、特に屋内競技用のスポーツ施設が不足している状況が見られることから、スポーツ施設の有効活用や競技活動の維持のために必要な活動場所の確保について検討したいと考えております。各区スポーツセンター等の競技種目ごとの利用状況の調査や、広島市スポーツ協会に加盟する競技団体へのヒアリングの実施、スポーツセンターの年間利用調整の分析など、競技種目ごとの施設の過不足の状況を把握するための実態調査を行えないかと考えております。

なお、研究会において、スポーツ施設の活用・整備については、広島市だけでなく広島県など広域的に考えるべきとの意見があることを踏まえ、広島県や周辺市町の施設についても調査対象としてはどうかと考えております。

また、既存の施設の有効活用の観点から、学校体育施設開放事業の対象となる学校や体育施設の拡充等にも取り組んでいけばよいのではないかと考えております。

#### （スポーツツーリズムとスポーツ施設（武道館）の連携について）

前回の研究会において、剣道・柔道だけでなく、空手道や弓道など「道」の付くスポーツが連携し日本の礼節文化を継承するためにも武道館は必要であるという意見や、広島市はこうしたインバウンドを取り込むために武道館をつくり、柔道や剣道や弓道などを体験させながら、附属施設で華道や茶道など日本文化に触れる機会をつくり、スポーツが観光に寄与できればというような意見がありました。

それに対する対応の方向性についてですが、日本文化に関心のある外国人をターゲットとして、広島を訪れる外国人旅行者に、剣道や柔道、弓道など「道」の付くスポーツ等を体験させるスポーツツーリズムのアイデアについて、まずは、外国人旅行者等を対象としたニーズ調査や、短期的な取組として、現行の施設の活用などにより体験が可能な場の提供の試行実施について検討してはどうかと考えております。

#### （その他）

最後に「その他」になりますが、今のスポーツの人であるとか組織は考え方が固すぎるんじゃないかというような話がありました。これについて、各競技団体等の考え方については、時代や組織の特性等により変化することも考えられますが、この点については、それぞれの組織に委ねていくこととしたいと考えております。

議事に関する資料説明については以上となります。ご意見等をよろしくお願いいたします。

#### 【市原座長】

ただいま、事務局から説明がありました。まずは、資料について皆様の方から何か御質問等はありませんか。内容は 1 回目の時の会議で皆様から出た意見が述べられています。

#### 【服部委員】

詳しい資料ありがとうございました。資料の 1 ページや 2 ページ辺りに部員数の推移であるとか、スポーツ少年団の指導者の推移であるとか載せていただいているんですけど、剣道の方が右肩下がりで非常に減少率が高いというのが分かって、柔道は私もぱっと見たときそんなに減っていないのかなと思ったんですけど、これもう少し一つ一つの目盛りを大きくしていくと、やはり柔道も減っているんだというか、例えばスポーツ少年団の団員数にしても、柔道は 308 人から 261 人に落ちており、剣道はピークの三分の一まで落ちている。広島市のスポーツ少年団の指導者数の推移にしても、剣道が三分の一ぐらいになって、柔道はそんなに変わらないように見えるんですけど、ピーク時の平成 30 年度の 97 人からは二分の一ぐらいに減っている。資料 1 ページ目の運動部活動の部員数の推移にしても、剣道は二分の一、柔道に至っては四分の一にまで減っている。表をぱっと見ただけでは柔道はそんなに減っていないように見えるが、数字だけ見ると四分の一まで減っているというのは、シビアなのかなという気がします。

#### 【事務局】

今回のこの数字がスポーツ少年団加入状況で見えておまして、スポーツ少年団に加盟するのに、お金がかかるんだと。実際にどれくらいかかるかというと、団体が一つ登録するのに毎年 4,000 円、団員が一人 800 円、指導者が一人 1,100 円ぐらいかかるというように聞いておまして、これが結構負担になって減ってきたりして、実はスポーツ少年団に入っていないけど活動はしていることもあると聞いています。剣道連盟さんどうですか。

#### 【名越委員】

先般 11 月に広島市のライオンズ大会という剣道の大会をやりました。680 人ぐらい参加がありました。従来は 1,100 人ぐらい参加者がいましたが、だんだんと減ってきている。現実的には。ただ、今でも 680 人ぐらいの参加はある。団体も 71 団体ぐらい。広島市では。これがスポーツ少年団になるとグリーンと落ちるんですよ。それは今ありましたお金の問題、それと大会に出ないといけないので忙しい。道場連盟というのがあり、その大会もあったりする。色んな連盟に入っているといつものどこかで試合に出ないといけないという弊害があって、スポーツ少年団だけやりますよといったら増えるかもしれない。でも現実的には無理ですね。そういう状況があります。

#### 【大岡委員】

服部委員がおっしゃったように、目盛りを変えとかなり傾斜が出てくると思います。スポーツ少年団の指導者の減少について、事務局からも説明があったように登録するにも料金がかかるというのがありますが、日本スポーツ少年団の統括団体である日本スポーツ協会からは、スポーツ少年団の指導者に公認指導者資格の取得を求めていますので、今後はその資格取得や登録及び更新の料金が必要になるということもあり、二の足を踏んでおられて指導者数が減っているというのもあるかと思います。

#### 【花本委員】

お金の件に関しては、柔道は昔から講道館柔道がありまして、そこに段を取っていくとお金が入っていくという状況があり、また指導者にもお金がかかると。実際に僕は去年までは年間 1 万円ぐらい払っていました。それは多い方ですが。今、僕自身が中国地方の審判の係をしておるんですけども、審判でも A ライセンス・B ライセンス、コンチネンタルという外国で審判をしなければならない、そのために外国に行かなければならない、これは特殊な形ですけども、そういうふうなどうしてもお金が発生するという状況はどこでもあるんじゃないかなと。ただ、減少のことについては、やっぱり今の武道館であるとか、場所であるとか、または中体連・中学校の先生の意欲であるとか、そういうものが昔とちょっと違うような感じがします。

#### 【市原座長】

ありがとうございます。とりあえず資料についての説明と皆様のご意見を承りました。次の対応の方向性についてはいかがでしょうか。

剣道・柔道は競技人口減少により施設の消滅が危惧されていますが、他の競技においても競技人口が減れば自然に競技施設も減少すると思います。そこで競技施設について、少し私見を述べさせていただきます。

私の勤める山陽高校の例ですが、柔道部はありませんが、剣道部・空手部が使っている武道場が老朽化したので立て替えを計画しました。

ところが、加入する部員が少ないので武道場は不要と意見が大勢でした。しかし、剣道は礼節を重んじる日本の伝統競技ですから体育の授業に採用しようと立て替えを進めることにしました。

一方、野球部においては男女合わせて 150～160 人位の部員が在籍し一つのグラウンドを共用していますが、試合に出るせいぜい 2～30 人程度の部員がグラウンドを独占しており、他の部員は十分な練習ができない状態にあります。野球の有名校はどこも同様だと思います。

しかし、地域によっては、施設はあるも少子化の影響で選手が集まらなくて廃部に追い込まれているところが見受けられます。

そこで私見ですが、部員が減っても施設は残っている学校に、実業団野球の補強選手制度のような、試合の都度選手をレンタルし試合に出して部を存続させるような方策は取れないかと。

ただ、高野連や高体連の難しいルールがあるようですが、サッカー協会のように柔軟な姿勢で、各競技団体とも競技人口減少の歯止め対策を検討しなければと思います。

それと、郡部の中学校あたりは剣道場・柔道場はありながらも、柔道・剣道を志す子が少なくなり自然に施設が無くなりつつあるようです。

そこで、すべての施設を残しても遊休施設では存続できませんので、全部残そうと欲張らず、地域毎の競技拠点をつくったらと思います。

一校だけでなく、広島は何区の学校に〇〇競技の子供たちを集めてですね、そういう方法を競技団体は学校や高体連・中体連などと話し合って競技人口や競技施設の減少を止めなければならない状況になっているのではと感じます。

あくまでも私の個人的な考えなのですがね。

これについて何かご意見がありますか。大岡委員如何でしょうか。

### 【大岡委員】

競技者や競技人口の増加ということになると、さきほど事務局から説明のあった初心者向けスポーツ教室が有用であると考えています。これは広島市が主催で、柔道の場合は親子のための初心者向け柔道教室を開催しておられます。実は、この会が始まる前に名越委員もおっしゃっておられましたが、以前は剣道の初心者向け教室も開催されておりました。こういったところで始められた方々を競技団体で育成していただければ競技人口が増加することが見込めることから、とても良い取り組みであると考えております。我々スポーツ協会も、色々なスポーツ教室をやらせていただくんですが、作成したチラシなどの配布先は限られているとともに、SNS やホームページでの広報は興味のある方には効果的ではありますが、スポーツに興味関心がない方には情報が届きにくい状況です。このような中、広島市主催ということで市立小学校等へ開催告知チラシを配布されたことから、アナログ的な広報にはなりますが、チラシをきっかけにスポーツを始められる機会を提供できたのかなと感じています。今後も拡充していただき、色々な競技で開催していただければなと思っています。特に、今年度の柔道はもちろんですが、スケート協会もすごく喜んでおられ、この事業に日本スケート連盟も普及の観点で取り組んでおられると聞いております。是非これは拡充していただきながら、スポーツを始めるきっかけを提供していただければと思います。

### 【市原座長】

ありがとうございました。今の対応の方向性についてなんですが、資料 3 ページをご覧ください

き、事務局から提案があった内容について、ご意見・ご質問をいただきたいと思います。  
その際、「この部分は各競技団体や、大学等と連携してできる」、「こうした事例や研究成果を踏まえた方がよりよくなる」など、事業を実施するに当たって、前向きに取り組めるような建設的な意見をいただくと、次につながるのではないかと思いますので、是非そうした視点での意見や提案をお願いします。

#### （競技人口について）

##### 【市原座長】

まずは、「競技人口」についてです。事務局からは、「①スポーツ未経験者や初心者に対し自分が興味のあるスポーツに触れる機会を確保する、②中学校の部活動以外で競技活動の場を確保する、③競技者・指導者・競技場所のマッチング等の仕組みを検討する。」といった方向性が示されました。これらについて、名越委員のご意見があればお願いします。

##### 【名越委員】

大岡委員からもお話しのありました初心者向けのスポーツ教室について、剣道も4年前にやらせてもらったんです。広島市の方から広島市剣道連盟の方へ是非やって欲しいということで。土日の2日間で、親子参加の本当の初心者。中区のスポーツセンターの小体育館でやらせていただき、私が講師でいきましたが、20人以上参加していただき、非常によかったです。最終的に半分ぐらいは剣道を始められました。このチラシの配り方ですが、市の広報もしていただいたんですが、広島市剣道連盟としましては、各区の剣道連盟所属の道場にもチラシを配れと指示して募集をしました。結構伝達できたと思います。当然、市の方でもやっていただいたんですが、剣道連盟としてもそのようなことでさせていただきまして成果がありました。

##### 【市原座長】

剣道は広島から日本チャンピオンが出ているのですから。剣道教室にチャンピオンを招聘し「日本チャンピオンが剣道教室で指導」とチラシに入れては如何でしょうか。

##### 【名越委員】

そういうように考えないといけないと思います。11月3日に全日本剣道選手権大会で広島県警の棗田君が優勝しましたので。天皇杯を見せてもらいましたが、やっぱりよいです。子供にはやっぱり見せてやる。そして一緒にいたら「サインしてくれ」や「写真を撮ってくれ」など言っていました。

##### 【市原座長】

柔道はオリンピックなど世界で活躍した花形選手がたくさんいますからね。そういう選手を講習会などに呼んでは如何でしょうか。花本委員、何かご意見はありますか。

##### 【花本委員】

今の話で言いますと、大野選手、野村選手、子供は誰か分からないわけです。だけど親が名前を聞いたことがあるとか見たことがあるとか、そういうところで意識付けにもなるし、すごい人だよと。また技を見せてもらったら雲泥の差があるわけですよ。やはりそういうところで、ああいうふうになりたいなと子供の気持ちが行くような選手が来てくれれば、やっぱり全然違うと。ちょっとお金はかかりますけれども。広島県にもオリンピック選手、中谷先生、川口先生、金メダリストがおられるんですけども、やはりそうは言っても僕らはすごい人だと思うんですけども、小さい子はただのおじさんだなという感じですから。やはりそういう現役のすごいところを見せてもらって、まああこがれですよ。そういうものを植え付けることが必要ではないかと思っています。

### 【市原座長】

現在、サッカー、バレーボール、ラグビー、ホッケーなど10の団体球技の12のトップリーグが連携して活動する「日本トップリーグ連携機構」という組織があります。川淵会長の下で私が専務理事を務め、GM研修会、審判研修会など各種の事業を行っています。

その中で、損保ジャパンとクリヤマジャパンがスポンサーの「ボールフェスタ」という事業を各地の自治体と組んで全国展開をしています。

即ち、子供達やその家族に団体球技の色々なボールに馴染み楽しんでもらう「ボール遊び祭り」です。勿論、目的は団体ボール競技の普及です。

子供達の相手は各競技のかつての有名選手で、彼等を「マイスター」として養成し、全国の「ボールフェスタ」を巡回していただいておりますが、各地で大変喜ばれています。

とりわけ柔道なら、井上康生さんや鈴木桂治さんと呼ばば沢山の子供達が集まり、子供達だけでなく家族も大喜びするでしょうね。

こうした「マイスター」などのほか、服部委員何かご意見はございましょうか。

### 【服部委員】

自分が興味のあるスポーツに触れる機会ということで、今スポーツの種目自体がすごく多様化していますよね。広島市ではアーバンスポーツをやられて、ボルダリングとか、e-スポーツまで含めれば多種多様になって、そこに子供たちが分散して、その中でいかに柔道や剣道、武道に注目してもらうかというところが、そういう意味で厳しい状況というのは間違いないのかなと。先ほども色々お話しされていて、じゃあそういった講習会や教室を開く受け皿をどこが担うのか。自治体なのか。企業や学校、大学なんかを巻き込んだ形での総合型のスポーツクラブもありますけど、そういうシステムみたいなのが作れるとよいのかなと。地域移行の話もありましたけど、やはり学校にクラブは残すべきじゃないかなというのは私の個人的な意見なんですけど。例えば、競技志向の人は地域に出てもらって、だけど学校でのクラブというのも教育的な意味合いもありますし、それはやはり残すべきではないのかなと。完全に移行してしまうのはいかがなものかなと。この間、教育新聞か何かに、熊本がもう部活動は学校に残すという方針を決めたという記事が出ていましたけど、そういった全部移すとかではなくて、いろんな中で学校でも柔道・剣道やって、地域でもできる。学校では、変な言い方でゆるスポーツじゃないですけど、まあ楽しみながら、それで興味を持てばちょっと地域の方に出て本格的にやってみようとかです。そういう柔軟な対応ができるようなシステムができればすごく受け皿としても広がっていくのではないかなというように思ったのと、これは全般的に思うんですけど、やはり市としての数値目標と言うんですかね、何かそういうのがあると。古い話であれなんですけど、昭和47年の保健体育審議会の答申で、人口がこれだけの街にはこれだけの柔道場・剣道場、プールとかスポーツ広場が必要ですというのを出してすごく画期的だったという歴史があったと思うんですけど、体育・スポーツ振興の基本的な方向でしたかね。あれがバーンと出て、ああいうのって大体が「努めなければならない」みたいな曖昧なものだったのが、あの答申の時にはもう人口がこれだけだったらプールがこれだけいるよというような、そういう数値目標が市として県として出て、すぐにはできないと思うんですけど、それに向かって計画を進めるみたいな長期的なプランというか、そういうものの中でこの武道場なんかもこの資料見ているとやはり広島にも武道場は必要になるんじゃないかと。これだけ政令指定都市の中で無いというのはね、やはり早急にそういうのは作るべきかなと思うんですけど、何かそういった必要性っていうものがこれから必要なのかなという気がしました。で、もうちょっと言わせてもらおうと、フランスなんかすごく柔道が盛んで、あれは小学校に、調べたらカリキュラムに入ってるんですよ。指導者は国家資格を持った人が教えていて、日本よりも柔道人口が多いんですよ。これは何なのかという。柔道をやっている人に聞くと、フランスなんかはどっちかと言うと勝敗というよりも礼儀とか作法とか挨拶の仕方、そういうところをすごく重点的に学校で教えているので、親がやはりそういうところに入りたい

みたいな。そういう勝つだけじゃない魅力の発信というか、そういうのをこれから考えていかないといけないのなかという気がします。

#### 【市原座長】

日本柔道が派手さを好まぬ武士道の影響を残している時代に、フランスでは既に柔道大会をエンターテインメント化していましたね。パリ国際など観戦をしましたが、会場を暗くして、選手入場時にはスポットライトとスモークを浴びせ派手な音楽で会場を盛り上げていました。

最初は少し違和感がありましたが、それがだんだんとその雰囲気に取り込まれました。

こうした見る側にたった大会運営を、フランス人が柔道って面白いなあと思い人気が出たのでしょう。その結果、重量級で世界チャンピオンも出して、競技人口は日本を遥かには凌いで、フランスの柔道は完全に家元の日本以上になっていますね。

先ほど申しました、各地域の施設が残っているところのデータ集めて拠点作れとか、運動部を校外に出して地域クラブを作れという前に、先ず学校スポーツの再興の必要があると思います。

学校スポーツは学園のソフトパワーで文化ですよ。学校関係者は、学校スポーツは学園の華であり大きなエネルギーになっていることを再認識しなくてはなりません。

私は常々、理事長の立場から学校にはスポーツを残さなきゃいかんと、「働き方改革」で教員の負担軽減をと、安易に校外に出すのではなく、残すための工夫や自助努力が足りなく他力本願じゃだめだと言っています。

それから、武道館建設の件に関しても、柔道・剣道のためだけでなく関係団体が連携して実現に向け努力し、次に運営方法をどうするのかということまで考えなければなりませんね。

単に、造ってくれ造ってくれと叫ぶだけではダメ、自助努力をしなくてはと思います。

それには、色んなところを巻き込んで、今回、市の観光課と連携しインバウンドの活用を検討されるようですが、こういう話が広がっていけばと大いに期待しているのですけどね。

大岡委員何かご意見がありますか。

#### 【大岡委員】

人が集まりやすい日は、土日や祝日だと思います。そのような日に大会やイベントを開催する各競技団体が重複することから、スポーツ施設の利用を調整するにあたっては使えない競技団体が出てくることになります。そのようなことから、先ほど座長がおっしゃったような総合的に使用できる施設の整備が必要であると思っています。各競技団体の皆様が定期的に活動できるような場所が整備できれば良いなと思っています。

#### （競技力の向上について）

#### 【市原座長】

ありがとうございます。

次に、「競技力の向上」に入らせていただきます。事務局からは、「①指導未経験者等に講習会・研修会を開催する、②場所の確保や講習会等への参加について支援する制度を拡充する、③指導者の確保のため大学等と連携する」などの方向性が示されました。

これらについて、名越委員、何かご意見ございますか。

#### 【名越委員】

ここでは特に私の方からはありません。

#### 【市原座長】

剣道部は広島県の大学にはほとんどありますよね。

#### 【名越委員】

剣道は大学でやっても昇段審査というのが全剣連だけですから、審査会に受けに行かないといけない。ですから統一的な技量になります。

【市原座長】

素人でも、人に誘われて大学から剣道を始めたという人もいと聞いていますが。

【名越委員】

2 段・3 段までは取れますよ。

【市原座長】

服部委員は何かご意見はありますか。

【服部委員】

場所の確保については、今さら新しい場所を造るのは難しいと思う。やはり中学校とか高校という学校が拠点になるのが現実的なのかと私はちょっと思っているんですけど。これから改修したりするときに、前回ですかねもうちょっとアリーナ化するという意見があったのは。今の学校体育館じゃなくて、それこそ観客席がスライド式で出るような体育館にして、日曜日とかちょっとした大会でも地域の大会ぐらいはできるぐらいの、何かそういった形で学校の体育館とかね、それからグラウンドにしても、普通学校のグラウンドで観客席つくるなんてあんまり日本では何言っとなやみみたいな感じになりますけど、ちょっとそういう観客席なんかでもあれば、何か大会のときに、区の大会とか小さな大会とかあったときにそこでできるよみたいな。10 年ぐらい前だったか、袋町小学校でしたかね、場所を新たに造ることはできないので、じゃあ学校というのは町の中心部にあるから、高齢化の話のときにどこかで話したと思うんですけど、今までは学校開放なんていっても学校教育が終わった後に、まあ夕方とか夜に社会人とか地域の人が集まってやるという形ですよ、基本的には。だけどこれから高齢社会になって、高齢者の方がたくさん出てくると、じゃあ体を動かすのに夜まで待つのかと。そうかといって郊外に施設造ってじゃあそこまで行くのかと、それは無理だろうと。そこに住まわれている地域の中学校とか高校で、しかも日常的に平日でもできるような、でもそれだと学校教育とぶつかるじゃないかというので、じゃあ体育館ぐらい高層化して、それこそ一階で小学校の 1・2 年生が体育館で体育の授業をやっている上で地域の人たちが何かこうできるような、もう横に広げれないので上下に広げるしかないかなというか、逆の発想でその方が地域の人たちも集まりやすいし、これはハード面での相当な課題があると思うんですけど、何かそんな形で学校にも人が集まる、でそういう中で地域の人と生徒が交流できるとか、別の相乗効果も生まれて、そういった形ができるといいなというか、この施設不足とかそういったものを解消するには一つの手かなと思います。

【市原座長】

我が山陽高校のグラウンドは、20 時まで学校側が使い、20 時から 22 時までは一般に開放しています。勿論、照明代など使用料はいただいております。

何れ学校施設も、地域貢献・CSR の一環として施設開放する時代になってくると思いますが。

次に花本委員何かご意見はありますか。

【花本委員】

いま色々話を聞きながら、どこかに拠点として施設があって、色んなスポーツができて、資料にもありましたけれども外国の人が見られて本当に興味をもってこれが見たいあれが見たい、ああこんなものがあるのかというような施設があればもっともっと活性化するのではないかなというように思います。

【市原座長】

おっしゃるとおりですね。大岡委員何かご意見はありますか。

【大岡委員】

指導者と競技力の向上では、資料の 4 ページにもありますように公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者制度に基づく講習会の受講を我々広島市スポーツ協会が取り組んでおります。現在、日本スポーツ協会では NO！スポハラというスポーツハラスメントの撲滅にも力を入れていますが、このような講習を受けていただくことで、技術もさることながら、ハラスメントのない指導をすることで、子どもを送り出す親御さんが安心して指導を任せるということになろうかと思います。我々もすでに取り組んでおりますが、資料の対応の方向性にも挙げていただいておりますので、しっかり取り組もうと思っておりますし、拡充についても色々ご検討いただければありがたいなと思っております。

【市原座長】

先ほど服部委員から出た話でもありますが、サッカーくじ（toto）の収益をスポーツ振興に充てる日本スポーツ振興センター（JSC）の芦立理事長と良く話をしますが、自治体の管理が余りにも硬く未だ変わらないのでスポーツ振興が遅れると何時も嘆いています。

私の考えを中国新聞のコラムに載せていますが、現在国はスポーツを成長産業にしようと競技施設のエンターテインメント化を進めており、競技場をスタジアムに、体育館をアリーナにと呼びかけています。

お酒を飲みながらでもスポーツ観戦を楽しめるアリーナにと時代は変わってきました。

広島サンプラザでは既にお酒を含め飲食サービスができていますが、しかし、広島市の殆どのスポーツ施設はいまだにスリッパに履き替えなければなりません。これでは広島で国際大会を開催しても、国際都市広島と言うには恥ずかしい限りです。

自治体側は、国際的にもエンターテインメント化するにしても施設の改善しなければならないところが沢山ありますが、競技団体側も自助努力を怠ってはならないと思います。

競技団体は、競技会の入場料を取らなければ施設使用料が安いので入場料を取らない。そうすると、使わせてもらっている意識で観客を増やそうとする努力を怠る。

行政側は使わせてやっているという上から目線で観客の目線から外れる。これではいつまでたってもエンターテインメント化できませんね。

競技団体は助成金だよりではなく、観客をしっかりと集めて、入場料収入を増やして使用料をドンと払う、という事業化を図らなければならない時代になってきていますが。

そういうエンターテインメント化できる施設をどんどん造っていかなくちゃと思います。

学校の施設でもそうですよね。体育館をアリーナにして、観客を入れミニコンサートやオペラなど開催し使用料もしっかり取れば良いと思います。

そういう発想が時代とともに広がってくるとは思いますかね。

今後、この会でそこらあたりも話し合ってみたら面白いなと思っております。

（競技場所について）

【市原座長】

次に、「競技場所」に移らせていただきますが、事務局からは「スポーツ施設の有効活用や競技活動の維持のために必要な活動場所の確保について検討すると出ておりまして、このため、施設の利用状況について実態調査を行いたい」という方向性が示されました。また、「中学校の部活動」については、「中学校以外で競技が継続できるように場の確保や、競技者・指導者・競技場所のマッチング等の仕組みについて検討する。」という方向性も示されておりますが、競技を行う場というくくりで、ここは一緒に伺いたいと思います。これらについて、名越委員、何かご意見はありますか。

【名越委員】

剣道は特殊なので、どうしても施設は床でないといけないんです。ですから、そういう床の施設があるところでやれるように考えてもらいたいというのが剣道連盟としてのお願いです。施設の利用が多様化すると、ダンスなんかは靴を履いてしますよね、穴が開いたり傷が付いたりすると、もう素足の競技としたらあまり好ましくないです。

【市原座長】

ダンスもそうですが、競技場の床は、バスケットボールは板でしかも「桜材」でなければならぬとか、競技団体それぞれの規定があります。数年前に慶応のバレーボール部の選手がナショナルトレーニングセンターのバレーボールコートで練習中に、板張りの床の板がささくれて大怪我をしました。その後ナショナルトレーニングセンターのバレーボールコートの床は塩化ビニルの床材になりました。バドミントンとかハンドボールなどは既に塩化ビニルシートのタラフレックスという床材を使っていますが。

今後、スポーツ施設は色んな競技に対応ができるような多様性が求められますね。

アリーナ競技では、床が傷つきやすいダンススポーツ用の床材や、柔道の畳、レスリングのマット、また、球技系のそれぞれの床材を保有し、国際試合を行うには国際公認の床材も準備しておく必要があります。

しかも簡単に敷き変えが出来るシステムも必要ですね。

現在、会場設営の殆どはノウハウを有したイベント会社に委ねていますが、お金がかかります。そこで競技会をエンターテインメント化し入場料収入を増しそれに充てようという動きが出てきていますね。

次々と新しいアリーナやスタジアムが建設されていますが、これはもう単に競技施設のみでなく災害時の避難場所や、多様な世代が集う交流拠点など多目的施設になりうるわけです。

従って、建設にあたり国からの助成を、避難場所なら国土強靱化対策として国交省から、バリアフリーにするので厚労省からと、色んなところに財源を求める智慧を働かせていますね。

花本委員何かご意見がありますか。

【花本委員】

今の話を聞かせていただいて、それならある程度色んなところから出費していただいてできるんじゃないかなと自分自身では思ったんですけども。できれば市から動いてもらってももちろん県の施設ができた方がよいんですけども。そういう形で動いていただければと思いました。

【市原座長】

ありがとうございます。服部委員他に何かご意見がありますか。

【服部委員】

さっきも言わせていただいたどういったところが受け皿になるかということで、まあやはり学校だけでなく企業とか自治体をひくくめた形での場所の確保っていうのはまあ現時点では必要になってくるんじゃないかなと。剣道なんか本当は普通の体育館の床じゃなくて特別なんですよね、本来は。剣道の先生に聞くと本来は固くて体育館の床ではダメなんですと。そういう意味ではやはりも武道場か武道館、柔道・剣道専用のっていうのは欲しいところですよ。

【市原座長】

大岡委員は如何でしょうか。

【大岡委員】

受け皿は本当に重要だと思います。先ほど座長がおっしゃったように、球技にはタラフレックスを準備する、剣道やダンスには別の対応や養生をするなど、多目的に対応するにはそれなりの投資も必要かと思います。スポーツセンターは多様な競技で使用されますが、タラフレックス等はないため、ほとんどの競技は床面のまま使用しておられます。そのためにも点検等を行って安全に配慮していますが、これから整備される施設については、これも座長がおっしゃった靴の履き替えがないような、色んな競技に対応できるようなものを準備し、受け皿をしっかりと決めて整備できればなと思っています。

#### 【市原座長】

何度もお願いするのですが、再度広島市にお願いいたします。東区のスポーツセンターでハンドボールの国際大会や日本リーグを開催する際、観客に履き物をスリッパに履き替えしないで入場して貰うために、通路などにシートを敷くのですが、その費用が相当かかります。これが不要ならば節約できて他のことに使えるのですがね。早く規制を解いて貰いたいと願います。

#### （スポーツツーリズム、その他について）

#### 【市原座長】

最後に、「スポーツツーリズム」、「その他」についてです。事務局からは、「①外国人旅行者等を対象としたニーズ調査を検討する」、それから「②体験が可能な場の提供の試行実施について検討する。」といった方向性が示されておりますが、これらについて何かご意見はありますか。最近あちこちでスポーツツーリズムをと叫ばれていますが。これだけ観光客が増えてきた観光立国日本と言われる中で、インバウンドを利用しない手はないじゃないかかと思います。

服部委員の話にもありましたが、海外では競技場の階上にショッピングセンターを併設してる施設が見受けられます。スポーツツーリズムというか、スポーツイベントやスポーツ施設を集積の場として、他の部門との連携がどんどんで広まってきているように思います。

先ほどの武道館の話ですが、政令指定都市に武道館が無いのは市民としたら本当に恥ずかしいですね。

武道館は、柔道と剣道だけでなく日本武道の本拠とし、また、武道だけでなく道の付く茶道や華道など日本文化のメッカにすれば、インバウンドやスポーツツーリズムに繋がると思います。

ここで、事務局の方から補足の質問等がありますか。

#### 【事務局】

施設の話が多く出たところですが、それに関して、資料の 6 ページの右上になりますが、スポーツ施設の有効活用や競技の維持のために必要な活動場所の確保について検討していきたいと思っており、具体的には施設の年間利用調整をする中で、施設が足りていないのではないかとすることがあるため、実際にこれを専門的な視点で調査してですね、どの種目がどの程度足りないのか、実際にこの施設がいるのかいないのかという必要性についてですね、他が無いから新たに施設が要るんだというのではなかなか本当にその必要性というのが説明しきれないと思うので、その要るのか要らないのか判断するための材料として実態調査というのが必要だと思いますので、これをやっていこうとしているところですが、実際に連盟さんの方から本当の実態を知ろうと思ったらどういうところにどういように聞くとよく分かるよというのはいかがでしょうか。

#### 【花本委員】

柔道については、どこの県に行っても大会などでアリーナを使うことがほとんどです。ただ、武道館があってそこを使うこともあります。ただ、そういう武道館があって近くのアリーナを使って大会をする。もちろん武道館が大会ができるような、観客席もあって会場もあって、他の道が付く競技があって、それならそこに集まる機会もたくさんできるんじゃないかなと思っています。それから武道館があれば、月曜日から金曜日までは交互にそこを使うとか、時間を区切っ

てやるとか、そういう工夫もできるし、そこに集まる機会もたくさん出てくるんじゃないかと思います。

#### 【名越委員】

特にないです。

#### 【事務局】

もう一つよろしいでしょうか。例えば中学校に行ってやりたい種目の部活動が無くて、他のクラブに入らざるを得ない場合に、区に一つでも自分がやりたい競技が学べる場所があればいいなと考えておりまして、競技人口が多い種目であればチームもたくさんあって学ぶことができると思うんですけど、競技人口が少ない種目はなかなか難しいのではないかと思います。そういう場所づくりというのは例えば協会さんと連携したら実現の可能性というものはあるものでしょうか。

#### 【花本委員】

柔道の話になりますが、スポーツ少年団なり各支部がありますけれども、そこへ近くの方が行けるような形は取っているつもりです。けれども、一人で行くのは難しいという子もおりますし、保護者がそこへ連れていけない、特に小学生は移動が危険であるということもあるし、そういうことが自然と、みんながこういうようなことができるよとアイデアを出し合って話ができるところがあればですね、そういう機会も設けたいなと思いますけども。

#### 【服部委員】

夢みたいな話なんですけど、競技力向上とか競技選手を強化するということになると、広島版のナショナルトレーニングセンターがあっても欲しいなというか、そういうことがあることで、やはり県外からもまた広島でやってみようみたいな、色んな種目の人たちが集まって、そこからじゃあ代々木へ行こうみたいな、そんなのがあっても面白いかなと。広島版の強化策みたいなのがあれば面白いなと。

#### 【市原座長】

おっしゃるとおりで、平成 12 年に文科省が策定したスポーツ振興基本計画には、週に何日かスポーツを、オリンピックのメダル獲得率を何パーセントにと、数値目標を掲げました。

それを受けた J O C は、この目標を達成するには、まずナショナルトレーニングセンターが必要だと国に働きかけ、国はトレーニングセンターをつくり運営するにはお金がかかると、じゃあ大衆からお金を集めようとスポーツ振興投票くじ（toto）一般にはサッカーくじを始めました。

しかし、この時の J O C をはじめ日本のスポーツ界は、これだけで満足してはいかん、中国は北京のナショナルトレセンを拠点とし、各州に建設されたトレセンとをネットワーク化して競技力向上に成果をだし、今や米国とオリンピックのメダル争いをしている。

この中国のトレセンシステムをモデルにしようと。

そのため、トレセンを九州に一つ、中四国で広島に 1 つ、近畿・東海に一つ、それから東北・北海道で一つ、と壮大な計画を立て実現させようと。

その後、J O C も競技団体も体制が変わっていつの間にか計画が頓挫し、現状のナショナルトレセンで満足しているというような現状のようです。

武道館建設は、剣道・柔道だけではなくて、なぎなた、弓道、空手など武道競技団体が集まって、せっかくの機会ですからもっと気運を高めたらと思います。

そして、武道館建設の小委員会を作って計画に移すとか。

今は夢のような話でも、今後の広がりとして、みんなで語りアクションを起こさなければ実現できませんからね。

今日の議題は出尽くしたように思いますが、事務局の方から何か次のお考えなどありますか。

**【事務局】**

次に関しましては今日の意見をまとめまして、今日の意見を対応策にどう盛り込んでいくか反映させていくかというのを考えていきたいと思います。

**【市原座長】**

了解しました。最後に皆様方から付け加えておきたいとか何かございませんでしょうか。  
有り難うございました。無いようですので、進行を事務局にお返しします。

**【事務局】**

市原座長ありがとうございました。

本日は、皆様方には貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

本日の議事録は、前回同様、作成次第、委員の皆様を送付させていただきますので、その際は内容を御確認ください。

また、次回の研究会のテーマについては本日の議論を踏まえて事務局で整理させていただきますので、引き続きご協力よろしくお願い申し上げます。それまでに御意見・御提案などがあれば、お気軽にスポーツ振興課までお寄せください。

それでは、以上を持ちまして、本日の研究会を終了いたします。

皆様、本日はありがとうございました。